

平成21年度「全国学力・学習状況調査」 大分県の概要について

調査の概要

1 調査目的

ア 全国的な義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、各地域における児童生徒の学力・学習状況を把握・分析することにより、教育及び教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。

イ 各教育委員会、学校等が全国的な状況との関係において自らの教育及び教育施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

ウ 各学校が、各児童生徒の学力や学習状況を把握し、児童生徒への教育指導や学習状況の改善等に役立てる。

2 調査期日

平成21年4月21日(火)

3 調査実施教科及び対象者数

公立学校データ

【小学校調査 第6学年：国語、算数】

	実施学校数	児童数
大分県	307校	10,860人
全国	21,482校	1,137,808人

【中学校調査 第3学年：国語、数学】

	実施学校数	生徒数
大分県	134校	10,878人
全国	9,851校	1,033,291人

4 調査の内容

教科に関する調査

主として「知識」に関する問題 〔国語A、算数・数学A〕	主として「活用」に関する問題 〔国語B、算数・数学B〕
・身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容 ・実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など	・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力などにかかわる内容 ・様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力などにかかわる内容など

生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

児童生徒に対する調査	学校に対する調査
・学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査	・指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況、児童生徒の体力・運動能力の全体的な状況等に関する調査

調査結果

1 各教科区分別の平均正答率

平均正答率(%)...〔それぞれの平均正答数を設問数で割った値〕

対象学年	小学校第6学年				中学校第3学年			
教科	国語		算数		国語		数学	
区分	A知識	B活用	A知識	B活用	A知識	B活用	A知識	B活用
大分県	69.4	48.1	78.7	51.8	76.8	73.9	61.4	53.9
全国	69.9	50.5	78.7	54.8	77.0	74.5	62.7	56.9
差	-0.5	-2.4	0	-3.0	-0.2	-0.6	-1.3	-3.0

参考 平成20年度調査結果

対象学年	小学校第6学年				中学校第3学年			
教科	国語		算数		国語		数学	
区分	A知識	B活用	A知識	B活用	A知識	B活用	A知識	B活用
大分県	62.5	48.0	72.0	50.0	73.4	60.0	62.5	47.0
全国	65.4	50.5	72.2	51.6	73.6	60.8	63.1	49.2
差	-2.9	-2.5	-0.2	-1.6	-0.2	-0.8	-0.6	-2.2

平成21年度調査とは、問題の難易度に差があり、数値の単純比較はできない。

2 調査結果について

結果の概要

- ・平均正答率は、小学校算数Aを除き全国平均を下回っている。
- ・平成20年度と比較し、全国の正答率との差が縮まった教科は、小学校国語A、同国語B、同算数A、中学校国語B（中学校国語Aは変化なし）である。
- ・小学校では、主に活用を問うB問題に課題がある。
- ・中学校では、数学に課題がある。
- ・質問紙からも、B問題への対応の遅れがうかがえる。

教科に関する調査結果

【小学校】 知識は概ね定着しているが、身に付けた知識を活用できていない

教科 区分	結 果 概 要
国語 A (知識)	<ul style="list-style-type: none"> ・全国平均と比べ 0.5 ポイント下回る。昨年度より全国との差が大きく縮まった。(H20年度: 2.9 差 H21年度: 0.5 差) ・18 問中 7 問が全国の正答率を上回る。 ・説明が求められる短答式問題の正答率は低い。
国語 B (活用)	<ul style="list-style-type: none"> ・全国平均と比べ 2.4 ポイント下回る。昨年度より全国との差は縮まった。 ・10 問中 1 問のみ全国の正答率を上回る。
算数 A (知識)	<ul style="list-style-type: none"> ・全国平均値と同じ。昨年度より全国との差が縮まった。 ・18 問中 9 問が全国の正答率を上回る。
算数 B (活用)	<ul style="list-style-type: none"> ・全国平均値より 3 ポイント下回る。昨年度より全国との差が広がった。 ・14 問すべてが全国の正答率を下回る。

【中学校】 国語はわずかに改善されたが、数学には課題あり

教科 区分	結 果 概 要
国語 A (知識)	<ul style="list-style-type: none"> ・全国と比べ 0.2 ポイント下回る。昨年度より全国平均との差は変化なし。 ・33 問中 14 問が全国の正答率以上。
国語 B (活用)	<ul style="list-style-type: none"> ・全国と比べ 0.6 ポイント下回る。昨年度より全国との差が縮まった。 ・11 問中 5 問が全国の正答率を上回る。
数学 A (知識)	<ul style="list-style-type: none"> ・全国と比べ 1.3 ポイント下回る。昨年度より全国との差が広がった。 ・33 問中 9 問が全国の正答率を上回る。
数学 B (活用)	<ul style="list-style-type: none"> ・全国と比べ 3.0 ポイント下回る。昨年度より全国との差が広がった。 ・15 問中 1 問のみ全国の正答率以上。 ・全国に比べ上位層が少なく下位層が多い。

質問紙調査に関する結果

【児童・生徒質問紙】

長い文章を読むのは難しい!

- ・「国語 B の問題にあるような長い文章を読むのは難しかった」と回答した児童生徒の割合は全国平均より多い。

解答時間が足りない!

- ・解答時間が「足りない」「やや足りない」と回答した児童生徒は、全ての問題で全国平均を上回っており、B 問題の方が全国平均との差が大きい。

【学校質問紙】

全国調査結果を学校改善に結びつけているが、具体策は十分でない。

- ・「全国学力・学習状況調査の自校の結果を分析し、指導計画等に反映させた」と回答した割合は小・中学校ともに 9 割を超え、全国値より上回っている。
- ・「児童・生徒に対して、資料を使って発表できるように指導しているか」や「児童・生徒が自分で調べたことや考えたことを分りやすく文章に書かせる指導をしているか」の問いに対しては全国平均を下回っている。
- ・校長の授業観察について、「ほぼ毎日行っている」と回答した学校は、小・中とも全国を大きく下回っている。

3 地域別結果について

平均正答率(%)...〔国語・算数(数学)A・Bそれぞれの平均正答数を設問数で割った値〕

教育事務所	小学校第6学年				中学校第3学年			
	国語		算数		国語		数学	
	A 知識	B 活用	A 知識	B 活用	A 知識	B 活用	A 知識	B 活用
中津	71.0	49.9	81.1	52.6	75.5	71.6	61.1	51.9
別府	68.6	46.8	77.6	49.9	76.0	71.6	59.9	52.1
大分・佐伯	69.3	47.9	78.3	52.2	76.9	74.3	61.3	54.4
竹田	67.8	47.0	77.1	49.5	78.3	77.1	61.6	54.6
日田	70.4	50.2	80.1	52.6	77.0	75.2	61.1	52.7
最大差	3.2	3.4	4.0	3.1	2.8	5.5	1.7	2.7

佐伯教育事務所管内は佐伯市のみであるため、文部科学省の定める実施要領の趣旨を踏まえ、大分教育事務所と併せて表記している。

【結果概要】

小学校算数を除き、A(知識)よりB(活用)の方が地域間の差が大きく、中学校国語B(活用)では5.5ポイントと、その差が最も大きい。
昨年度に比べ、小学校における地域間格差が縮まった。